様式１

北海道倶知安農業高等学校の行動計画（グローカル・アグリハイスクール宣言　PartⅡ）

全国の農業高校の行動計画		学校において令和４年度に重点化する取組及び具体的方策		
「５つのミッション」	「８の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	目標達成期間	具体的方策
Ⅰ **グローカル教育**で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	・地域性を活かして、農業教育の質を向上させ、生徒が達成感を実感できる取り組みを充実させる。	A B	・日本農業技術検定３級の合格率１００％を目指す。 ・農業クラブ活動、特に研究班活動の充実を図り、農業教育の活性化を目指す。
	2 「世界と日本をつなぐグローカル教育」を行います。	・農業の国際化に対応したグローカルな教育活動を展開する。	A	・国際的な視野を持つつ、地元地域の特徴を活かした農業教育を充実させる。ＧＡＰ継続認証への取組を目指す。
Ⅱ **地域社会・産業**に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	・地域の特色を生かした生産技術の学習を展開し、地域を支える人材育成を目指す。	B B	・ようてい和牛のブランド化を図る飼養管理の確立を行う。 ・スマート農業技術を活かし作物栽培の学習とその実証実験の取り組みを行う。
	4 「地域の農業関連産業や６次産業化に寄与する教育」を行います。	・農業の６次産業化の学習を展開し、地域産業を担う人材を育成する。	A A	・地元酒造会社と連携・協働した酒造米の生産と日本酒づくりの研究を行う。 ・研究班活動を通して、地域産業との連携を図り、地域理解を深める。
Ⅲ **地球環境**を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	・持続可能な農業生産への取り組みを充実させる。 ・SDGsを意識した農業生産の取り組みを充実させる。	A A	・ICTを活用したスマート農業に関する取り組みを行う。 ・施肥や防除基準を遵守した農産物の生産を行う。
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	・地域未利用資源の活用や地域の人材、自然の恵みを積極的に活用する。	B B	・澱粉かす、規格外馬鈴薯の飼料利用による豚、肉牛肥育技術の確立を行う。 ・地元で廃棄されるような副産物を活用した商品開発の研究を行う。
Ⅳ **地域交流**の拠点となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	・農業の基礎基本を見直し、工程の見える化、自動化の基礎を学び、応用できる人材を育てる。	B B	・動植物の基本的な生理生態の基礎知識を身につけ、その生産工程管理を学び、時代に即した応用力を養う。 ・農業生産者と農業理解者が共に豊かな環境を構築できる、情報環境づくりを行う。
Ⅴ **地域防災**を推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	・地域防災に努め、危機管理に対する意識を高める。	B B	・農場の環境整備に努め、安全教育を推進する。 ・ＧＡＰ学習やリスク管理の学習を通して生徒への安全教育を推進する。